

オオシロカミキリ浜坂町に産す

小 倉 滋

53年7月30日、浜坂町に生徒とのキャンプに参加しオオシロカミキリ(*Olenecamptus cretaceus*)1♂ 採集した。模式標本は兵庫県産であるが、大林一夫氏や小島圭三、林匡夫氏がその分布域を中支東部、朝鮮、九州、対島をあげられている。発生期は6~8月、幼虫の食樹はクワ、ムクの木と報告されているが、本種は本州では稀にしかみられない種であると考えられる。

しかも南方系のカミキリで裏日本の浜坂町のような地域で採集されるのはめずらしい。採集周辺にはムクの木や桑などは観察されなかったが、ネムノキやミズキ、コソソなどの落葉木と針葉樹の赤松とスギ、ヒノキの樫樹が目についた。

このカミキリのいた位置とその習性から、室内の燈火に誘引されて、来たものと考えられるが採集地の周辺は三方が山に囲まれ前方が海であり、燈火のさす方向は建物の条件から海7分、南面の山地3分の周角60°ばかりと見られる。そこにはネムの木が多く見られるので食樹の一つはネムではないかと推定される。

宝塚市のアオマツムシ

泉 春 谷 慎 一

アオマツムシは、4~5年前から急に分布を拡げはじめている。筆者が宝塚市に住みはじめた昭和40年頃は、ファミリーランドのまわりにしかおらず、43年に六甲に通勤するようになって、阪急沿線にあるツメイヨシソに細々と鳴いていた。

所で、筆者は昭和52、53の兩年、宝塚市大原野にある少年自然の家に、9月末頃訪れる機会を得た。52年には全く鳴声を聞けなかったが、53年には、広葉樹のある所一帯に拡がっていた。52年にもつと注意して、拡がりを調べておけばよかつたと思つたが、後のまつりであつた。とにかく、52~53年に宝塚市北端近くまで拡がつたことを記録しておく。なお、51年に川西市平野までは確実に分布していたので、宝塚でも、かなり拡がっていたことは間違いないと思う。